

令和7年度 大館市立城西小学校 学校評価書 (前期・年度)

【学校教育目標】

チーム城西 ともに光りかがやく

秋田県最初のコミュニティ・スクールを舞台に

2025 「Be Happy!大作戦」～第2章 みんなで幸せの花を咲かせよう～

【未来大館市民こども像～未来を紡ぎ上げる力】

- 1 ふるさと城西を愛し、地域のためにできることを考え、実践する子ども (F C)
- 2 心と体の健康を意識し、体力つくりをする子ども (体)
- 3 自他のよさが分かり、思いやりを態度に表す子ども (徳)
- 4 自分の考えを表現し、共感・協働しながらすんで学び合う子ども (知)



	重 点	実 践 課 題
人間的基礎力・大館市民実践力の育成	A 特色ある学校運営 ～コミュニティ・スクール	<input type="checkbox"/> 組織の機能化と学校教育目標の推進 <input type="checkbox"/> 特色ある教育課程の編成 (キャリア発達の支援) <input type="checkbox"/> 適正な事務処理 <input type="checkbox"/> 保護者・地域との連携強化と情報の受発信
	B 学ぶ力の育成	<input type="checkbox"/> 学習習慣の確立と基礎・基本の定着 <input type="checkbox"/> 授業力の向上と校内研修の充実
	C やさしい心と 安全・安心づくり	<input type="checkbox"/> 主体的な特別活動・児童会活動 <input type="checkbox"/> 諸問題への迅速かつ適切な対応
	D 健康と体力の向上	<input type="checkbox"/> 基本的な生活習慣・食習慣の定着 <input type="checkbox"/> 自立に向けた生活習慣の確立 <input type="checkbox"/> 体力つくり
	E ふるさとキャリア教育	<input type="checkbox"/> S C活動 <input type="checkbox"/> 弥栄 Be Happy!プロジェクト



Happy タイムの語り合い



地域委員会との共催による夏休み学習会



外部講師によるクラブ活動

評価

重点A 特色ある学校運営～コミュニティ・スクール

1 組織・運営			
学校の状況	自己評価A	運営協議会評価	運営協議会のコメント
(学校が)地域と連携しながら、特色ある学校づくりを計画的・組織的に推進している。	前 期	良好	良好 BeHappy をキーワードとして徹底して学校運営にきめ細かに取り入れている。BeHappy 推進室を訪ね、相談、提案している児童も多くいるので、今後も維持していただきたい。
	年 度		
自己評価の概要と学校の改善策	【前期（→年度）】「Be Happy!大作戦」第2章がスタートした。校長は学校教育目標の具現化のための10のプランを分かりやすく示したこと、全職員はもちろんのこと、児童や保護者や地域にも、経営ビジョンがよく浸透した。このプランを基にして各学年、つくり部は学校教育目標の具現化できるよう様々な取組を展開している。また、校長室を「Be Happy!推進室」とし、児童と触れ合う場にしたり、保護者との面談「Happyトーク」を新たに開催したりすることで、「Be Happy!」についてともに語り合うことができた。学年の目標にBe Happy!の文言を取り入れ教室の正面に掲示したり、行事にBe Happy!を入れた取組を展開することにより、児童は、授業や行事あらゆる場面でどうすれば様々な人にとっての幸せを実現できるか考えるようになってきている。また、児童の意欲や自主性を引き出しつつ、教師が児童一人一人に向き合い、学習・生活両面の指導を充実させることを目的に、週時程表や時間割の見直しを行っている。後期も教育課程のあらゆる場面に「Be Happy!」を反映させていきたい。		

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
1 地域に信頼される特色ある学校づくり ・城西BeHappy推進室 ・校長室やめました！みんなの幸せを考える部屋 ・人と人をつなぐ場 Happyのために語り合う場 ・心の緊急避難所 ・「弥栄BeHappyプロジェクト」の推進	(1)組織の機能化と学校教育目標の推進	・学校教育目標の浸透と組織的な実践 ・学校教育目標を実現するための指導部の組織編成と、計画的・組織的な取組	4	
	(2)特色ある教育課程編成（キャリア発達の支援）	・週時数の改善と時間割の編成、行事の調整 ・生活科及び総合的な学習の時間を中心とした大館ふるさとキャリア教育の推進とSC活動の推進	4	
	(3)適正な校内事務処理	・円滑な学校運営に係る校内事務処理の適正化	4	

[1-(1)に関するデータ]



特色ある教育活動を全職員で共有する
コミュニティ・スクール研修会（4月）

[1-(2)に関するデータ]

ハッピーグリーンプロジェクト



地域の方々との会話が
弾んだ芝生の手入れ作業

教育活動の方向性を示すHappyPlan

Be Happy!プロジェクトへの取組

68%	29%	2%	1%		
0%	20%	40%	60%	80%	100%
● よく思う	■ 思う	▲ あまり思わない	△ 思わない		

Be Happy!をテーマに校長先生と保護者とのHappyトーク

Be Happy!大作戦の1つ「防災プロジェクト」

弥栄 Be Happy !集会

地域の大館囃子演奏に挑戦



2 保護者・地域との連携			
学校の状況	自己評価A	運営協議会評価	運営協議会のコメント
(学校が)取組を分かりやすく保護者や地域に伝え、地域の教育力を有効に活用している。	前期 良好	良好	児童の安全に関する情報交換やアドバイスの提案など、オレンジ隊を筆頭に学校と地域のコミュニケーションが非常によく取られている。高齢化の心配はあるが、今後も続けていきたい。
自己評価の概要と学校の改善策	【前期（一年度）】学校報「SUPER城西YES！」を月3回発行し、児童の学びの様子や行事の取組などを家庭や地域に伝えている。また、地域コミュニティ通信「コムニタ」を毎月発行し、学校・家庭・地域が連携した取組を幅広く保護者と地域に発信している。ガードボランティア隊との情報交換会を毎週開催し、そこで得た情報を安全な登校や地域の過ごし方の指導に生かしている。また、学校からの情報を伝えることで、ガードボランティア隊には安全な通学路の確保に尽力していただいている。さらに、連絡メールを活用して細かに情報を発信することで、健康面での声かけや安全面での見届けなどの協力を得ることができている。PTA「一人一役」の活動が、図書整備作業、朝の登校指導、プール監視ボランティア等で展開されている。地域ボランティアの方々による協力体制、地域委員会との連携も充実しており、町探検、米づくり体験、体力テスト等、児童の体験的な学びを支えている。何度も顔を合わせることで、職員と地域の方との距離が縮まり、親しく話せるようになってきた。後期も「顔の見えるお付き合い」を継続し、さらに教育活動を充実させていきたい。		

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
2 地域との協働と情報の受発信 ・大人と地域への信頼を醸成する学校の応援団 ・大人も楽しむBe HappyなPTA	(4) 保護者・地域との連携強化と情報の受発信	<ul style="list-style-type: none"> ・学校報「SUPER城西YES！」配布とHPへの掲載地域報「コムニタ」の発行、メール等による情報発信（保護者向け） ・緊急連絡に伴うメール連絡網の整備 ・ガードボランティア隊（オレンジ隊）との情報交換 ・PTA活動（一人一役） ・地域学校協働活動の推進（正課クラブの調整、新体力テストへの協力、各教科等での外部人材活用、図書館環境支援等） ・地域委員会との連携（Happyグリーンプロジェクト、安全レーンのペンキ塗り、ペットボトルキャップ収集他） 	4	

[2-(4)に関するデータ]

◎取組の実際

(1) お便り等による情報提供について

- ・学校報「SUPER城西YES」 月3回発行
- ・地域報「コムニタ」 月1回発行
- ・学年便り・保健だより・城西っ子のくらし
- ・連絡メールの活用（安全に関する連絡・情報提供等）

〈保護者アンケート〉「学校は情報を発信していますか。」

回答	割合
よく思つ	60%
思つ	38%
あまり思わない	1%
思わない	1%

(2) オレンジ隊との情報交換・下校の見守り

- ・オレンジ隊発足式、給食交流会
- ・保護者との交流会
- ・学校側と情報交換会（毎週木曜日）
- ・1年生の安全な下校の見守り（情報交換後）

保護者とオレンジ隊の交流会

オレンジ隊との集団下校

(3) PTA活動

- ・PTA総会
- ・PTA運営委員会
- ・各専門部、学年部の活動、親子ふれあい学習
- ・PTA一人一役の協力
- 図書整備
- ベルマーク集計
- 登校指導

5年親子学習（ボッチャ）

図書整備作業

(4) 地域学校支援活動による支援の有効活用

本の読み聞かせ

新体力テスト測定補助

(5) 地域委員会と連携した事業の展開

夏休み学習会

安全レーンのペンキ塗り

重点B 学ぶ力の向上

3. 自ら考え学び合ひ力・基礎学力の育成

児童生徒の状況	自己評価A	運営協議会評価	運営協議会のコメント
(児童が)意欲的に授業に臨み、学習習慣を確立し、確かな学力を身に付けている。	前期 概ね良好	概ね良好	城西検定は家庭学習の取り組み方への意欲付けになると思うので継続してほしい。全員が授業に集中できるように興味をもたせる授業づくりをしてほしい。
自己評価の概要と学校の改善策	年度		

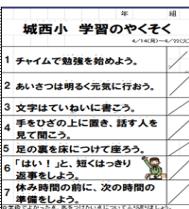
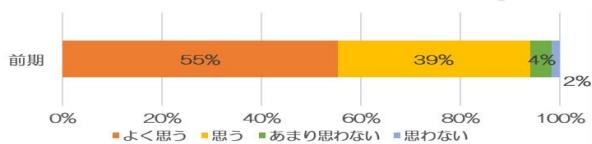
【前期（→年度）】新しい施策として行った「学Be Happy! Time」では、学習に向かう姿勢や学習の約束を守ることの大切さを児童自身が気付き、各学年ごとの重点を全校に放送するように設定した。また、城西検定についても再テストを復活させ、児童に確かな学力を身に付けさせるために基礎・基本の定着に取り組んでいる。今後も児童の実態を把握しながら、学習習慣を確立していきたい。

今年度から特別の教科「道徳」の研究がスタートした。研究を行うにあたり、川崎校長を講師に全員で道徳の授業の在り方にについて学んだ。また、授業の展開等について、算数の授業動画や示範授業で全員が授業づくりについて確認することができた。また学団で指導案検討会を行い模擬授業をするなどしてよりよい授業づくりに力を入れている。学力向上では、全国学力・学習状況調査の結果分析を行い、各学年でどんな指導を大事にしていくべきかを確認した。道徳教育や学力向上について研修したことと共通実践事項として、日々研修に努め続けていきたい。

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
3 Happy学びつくり	(5) 学習習慣の確立と基礎・基本の定着	<ul style="list-style-type: none"> 学習スタンダードの徹底(学び方集会、「学習の約束」の掲示、強調週間、学Be HappyTime) 家庭学習の習慣化(ノートを見るday、ノート展示、マイスターの表彰、強調週間) 基礎基本の定着(城西検定、週末プリント、学習会、音読) 学習環境の整備(学び・道徳の各コーナー、慣用句・ことわざコーナー、言葉の宝箱掲示、学年花壇) I C T・メディア(情報集会)、学校図書館の利用、読書の推進 	3	
4 Happy授業力向上	(6) 授業力の向上と校内研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> 本気ッズタイムを中心とした主体的・協働的な学び合いの工夫 ねらいを明確にした授業づくり 学団研究の充実 一人一研究授業の実施 授業研究会の充実 	3	

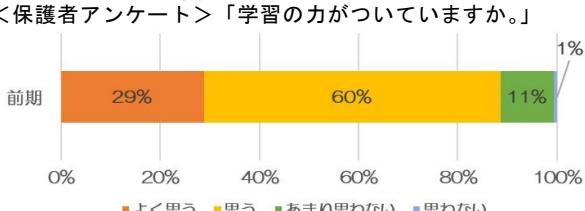
[3-(5)]に関するデータ

<児童アンケート>「学習の約束を守っていますか。」



学習の約束 慣用句・ことわざコーナー

<保護者アンケート>「学習の力がついていますか。」



道徳の授業研究会

◎取組の実際

(1) 学習習慣の確立と基礎・基本の定着

- 学習の約束強調週間(4月・8月)
- 学び方集会(4月・8月)、情報集会(4月)
- 学Be HappyTime(5月: 6年、6月: 5年)
- ノートを見るdayパートI 校長先生が見る(5月: 5年、6月: 3年)
- 家庭学習ノート展とノートマイスターの表彰(7月)
- 城西検定(朝学習(国語・算数、月1回))
- 音読・タブレットの計算練習(朝学習)
- 週末プリント学習(4月から継続)
- 学習環境の整備(花壇整備5月~)
- 夏休み学習会

(2) 授業力の向上

- 授業づくりのための研究会の充実(学団での指導案検討会、ワークショップ形式での研究会)
- 基礎・基本の力の育成
- 本気ッズタイムの設定
- 一人一研究授業
- 模擬授業による指導案検討会

(3) 校内研修の充実

- おおだて型授業の視聴やTT算数の示範授業
- 「道徳」を学ぶ研修会の実施
- 学団研究計画の作成及び実施
- 学び合い、語り合いの推進(「Be Happyタイム」「考えるヒント」)
- 校外研修への積極的な参加と情報の共有
- 全国学力・学習状況調査の結果分析
- 研究だよりの発行

重点C やさしい心と安全・安心づくり

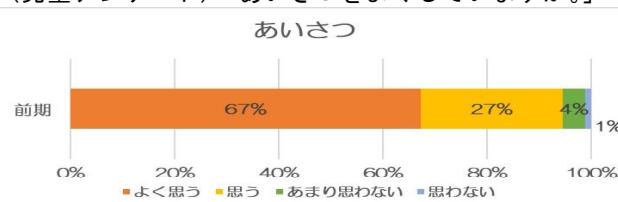
4 やさしさと思いやりの心の醸成

児童生徒の状況	自己評価A	運営協議会評価	運営協議会のコメント
(児童が)互いのよさに気付き、自分を大切にし他を思いやる心をもち続けようとしている。	前期 概ね良好	良好	日常的にあいさつができ、授業中も「助けます。」と、互いに協力し合って学んでいた。道徳の授業が好きな児童も増えている。さらに、学校の場以外でも地域の方にあいさつをし、思いやりの心を育ててほしい。
	年度		
自己評価の概要と学校の改善策	【前期（→年度）】あいさつ活性化のため、強調週間を設定しカードを活用した。1回目の強調週間では「進んであいさつをする」ことを全校でめあてにし、2回目の強調週間では、個人で「進んで〇〇な（「笑顔で」「元気に」など）あいさつをする」ことをめあてにした。あいさつのよい児童には「あいさつ Be Happy！」カードを先生たちから手渡したことが励みとなって取り組んでいた。強調週間が過ぎても快いあいさつができるように、日常の指導や励まし、認める声かけ等を継続していく。また、各学年のあいさつ運動や委員会の活動も併せて実施していく。 ハートアップタイムは、縦割り班の顔合わせや清掃などで異学年交流をしており、上級生が下級生のお世話をする姿が見られた。昨年度の2学期の異学年交流は、城西サミット会議での児童の発案による兄弟学年との交流給食であった。今年度の異学年交流も、児童の意見を生かして実施していく。 なの花カードは、やさしさやがんばりの姿を認めたり、よい行いを広げたりするための取組で、児童相互が記入し廊下に掲示している。昼の放送での花カードの内容を紹介し、児童も嬉しそうである。互いを認め合い、よさを広げるきっかけとなるとともに、自分の良さを自覚し自信につなげることにもつながった。今後は他学年へも視点が広がるように活動を継続していく。また、偏りがないように1年間で全校児童のカードを放送で紹介していきたい。		

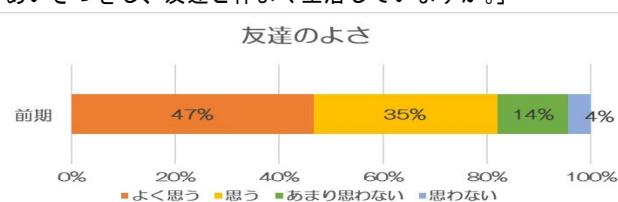
評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
5 Happy 豊かな心つくり ・思いやりの心をもち、礼儀正しくふるまう子 ・Happyな学校、Happyなあいさつができる子	(7) 主体的な特別活動・児童会活動	・児童が主体となってのあいさつ運動 ・児童の発意・発想を生かした児童会、委員会活動 ・自他のよさを認め合う「なの花カード」 ・縦割り班や兄弟学年等の活動を中心とした異学年交流	3	

[5-(7)]に関するデータ

(児童アンケート)「あいさつをよくしていますか。」



(保護者アンケート)「お子さんや子どもたちは、元気にあいさつをし、友達と仲よく生活していますか。」



◎取組の実際

(1) あいさつ運動の推進

- ・毎月のあいさつ運動（学年）
- ・あいさつ強調週間の実施
あいさつカード、あいさつの話合い、あいさつ Be Happy!カードで賞賛
- ・一中生との合同あいさつ運動（7月8月）
- ・運営委員会による「あいさつbingo」の実施

(2) ハートアップタイム（円滑な人間関係作り、自他を思いやる心をねらいとした交流）

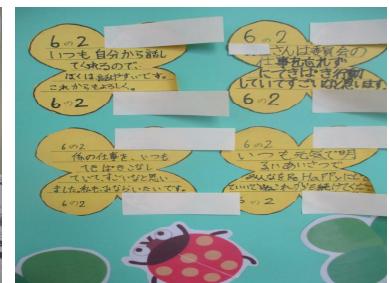
- ・スタート集会での異学年交流
- ・縦割り班清掃
- ・兄弟学年等の交流活動

(3) なの花カード

- ・全員分の廊下掲示
- ・全員分の校内放送での紹介

(4) その他

- ・児童の意見を生かす城西サミット会議
- ・児童の発想を生かす児童会、委員会活動



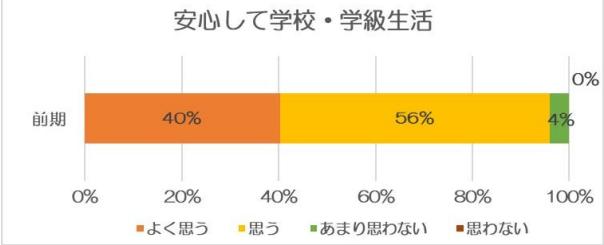
4年生によるあいさつ運動（9月）

あいさつ強調週間パート2

なの花カード

5 安全・安心				
学校の状況		自己評価A	運営協議会評価	運営協議会のコメント
(学校が)児童の校内外における安全確保に努め、諸問題に組織的に対応している。	前期	良好	良好	町内連絡会はガード隊と全校児童が話し合えるとてもよい機会である。コミュニティスクールである以上、学校は開かれた場なので、防犯の面では十分に注意して指導を継続してほしい。
	年度			
自己評価の概要と学校の改善策	【前期（→年度）】安全の意識化を図る取組として、おたより「城西っ子のくらし」を配付し、各学級や全校放送などで安全指導を行い、未然防止に努めている。また、生徒指導力向上のために「生徒指導部報」を活用して情報提供し、教職員の意識の向上を図り、事故やトラブルの未然防止及び迅速な対応に努めている。校外生活では、地域巡回を行い、登下校の安全指導や放課後の遊び方の指導、店への訪問や公園の巡回などをしてきた。いじめ、不登校の未然防止として、いじめアンケートの実施や担任による家庭訪問、保健室との連携など、教職員間や保護者と連携を図りながら取り組んでいる。また、生徒指導に関する情報共有を図るために、職員打合せ後に「児童理解の会」を行っている。児童や学級の様子を知ることで、児童理解を深め、指導に生かすことができており、学校全体で子どもたちの見守りができている。また、児童を取り巻くあらゆる危険に対応できるように、職員間や保護者との情報共有を図り、連携していきたい。今後、校内では安全な廊下歩行や元気なあいさつ、校外では、不審者への対応を含めた継続的な登下校の安全指導や自転車の乗り方等の交通事故の未然防止のための地域巡回を続けていきたい。			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
6 Happy 生徒指導 ・きまりを守ってみんなの幸せを考えられる子	(8) 諸問題への迅速で適切な対応	<ul style="list-style-type: none"> ・児童に必要な安全教育の実施(事件事故の未然防止、町内連絡会、集団下校) ・安全確保のための地域力の活用(オレンジ隊等) ・情報の共有化と、学校体制での迅速な対応 ・組織的な不登校、いじめ対策 ・郊外生活を把握する地域巡回 	4	

◎取組の実際		<p>(6) 校内外の安全の意識化を図る「城西っ子の一日チェック表」の活用</p> <p>(7) 每週の打合せ後の「児童理解の会」を開催 ・教職員間で情報を共有</p> <p>(8) 全校集会や終業式後、昼の放送による安全指導 ・大型連休、夏季休業前、適時に実施</p> <p>(9) 緊急メールの活用</p> <p>(10) 「子ども110番の家」への協力依頼・適時訪問 ・7月(長期休業中に全ての教職員の協力で行う)</p>												
<p>(1) 交通安全教室の実施</p> <p>(2) 朝の登校指導(月初め・学期の初めを中心に) 学校・保護者・地域：民生児童委員</p> <p>(3) ガードボランティア・オレンジ隊の活動 ・毎週木曜日1年生と下校 ・町内連絡会への参加と集団下校</p> <p>(4) いじめ未然防止の指導(一人一人に目を向けた学級経営) ・いじめアンケート調査の実施(学期に1回) ・教育相談の実施(全児童)</p> <p>(5) 安全の意識化を図る生徒指導通信、「城西っ子のくらし」の発行</p>		<p>[6に関するデータ] (保護者アンケート) 「安心して学校生活を送ることができますか」</p>												
 		<p>安心して学校・学級生活</p>  <table border="1"> <caption>【6に関するデータ】</caption> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>よく思う</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>思う</td> <td>56%</td> </tr> <tr> <td>あまり思わない</td> <td>4%</td> </tr> <tr> <td>思わない</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>☆十分達成できていると達成できている合わせて96%と高い評価。</p>			回答	割合	よく思う	40%	思う	56%	あまり思わない	4%	思わない	0%
回答	割合													
よく思う	40%													
思う	56%													
あまり思わない	4%													
思わない	0%													
<p>大館警察署の方からも安全指導をしていただいた 交通安全教室</p>														
<p>町内連絡会後には、オレンジ隊のみなさんと集団下校</p>														

重点D 健康と体力の向上

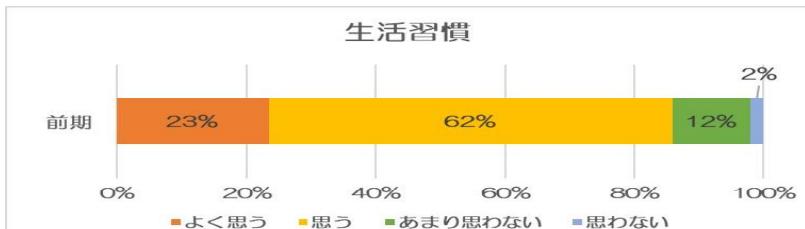
6 健康的な生活習慣づくり

児童生徒の状況 (児童が) 健康への関心をもち、望ましい生活習慣を形成しようとしている。	自己評価A 前 期	自己評価A 良 好	運営協議会評価 良 好	運営協議会のコメント	
				生活習慣やメディアに関する呼びかけ等の取組はよい。継続した働きかけをすることで気付く保護者もいる。すぐに成果は出ないと思うが続けてほしい。	
自己評価の概要と学校の改善策	【前期（→年度）】 基本的な生活習慣の定着については、保護者に保健だより等で情報提供を行った。また「自分にとっての BE HAPPY なメディアの使い方」について全校児童にメディア BE HAPPY カードに書かせメディアコントロール力の育成を図った。このカードについては9月の大館市小中合同メディアコントロール週間の際に掲示する予定である。またインターネットトラブル防止教室では、振り返り放送を行ったことで、知識を定着させ、自分事として考えることができた。保護者にも知ってもらうため、保健だよりで情報提供した。清掃指導は、班長会議で清掃の基本的な進め方や注意事項について確認をし、継続している。給食指導は、職員会議で給食指導の進め方を示し、各学級で共通理解して指導している。保護者向けに、お便りを通して、心の健康や生活習慣についての情報発信をしている。保護者からは心の健康や子育てについて参考になったという声をいただいた。今後も心の健康を大事し、望ましい生活習慣の形成のために有効な施策を展開していきたい。				

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前 期	後 期
7 Happy 生きる力つくり ・自分や周りを Happy にする メディアコントロールができる子 ・SOSを発信できる子	(9) 基本的な生活習慣の定着	・保護者への情報発信（保健だより、こころチャージ） ・メディアコントロール（メディア Happy カード、インターネットトラブル防止教室の振り返り放送）	4	
	(10) 自立向けた生活習慣の確立	・給食指導（準備や片付け、マナーの徹底） ・清掃指導（職員への清掃方法の伝達、班長会議による清掃活動の徹底）	3	

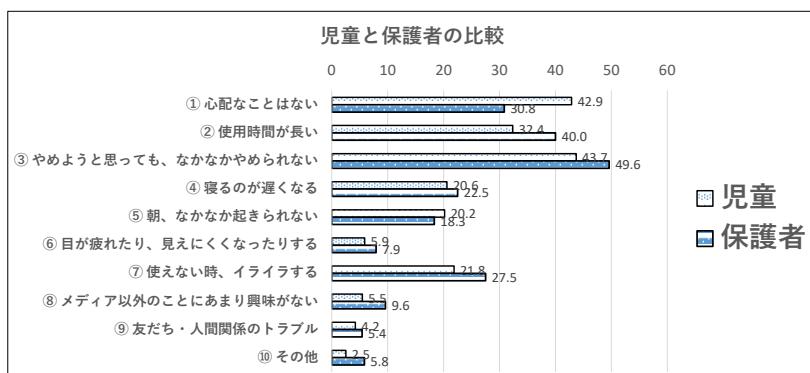
[7に関するデータ]

【お子さんや子どもたちに生活習慣がついているか】

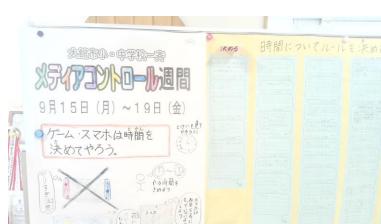


- 85%の保護者がよく思う・思うと答えている。一方、14%があまり思わない・思わないと答えている。

【電子メディアを使っていて心配なこと～児童と保護者の比較】



- 保護者アンケートの自由記述では、メディア使用で悩んでいると記載されることが毎年あつたり、メディアと生活習慣に関する実態調査では、子ども・保護者とも共通で「なかなかやめられない」「使用時間が長い」「使えない時イライラする」の悩みがあるようだ。



7 体力の向上					
児童生徒の状況		自己評価 A	運営協議会評価	運営協議会のコメント	
(児童が)運動に関心をもち、自らの体力の向上に取り組んでいる。	前期	概ね良好	良好	全体的に運動能力が高い印象である。習い事等で普段から運動をしている児童もいるが、学校で遊べる環境や業間運動があることで、どの児童も身体を動かすことに繋がっている。	
	年度				
自己評価の概要と学校の改善策		<p>【前期（→年度）】</p> <p>体力の向上のために前期では主に2つの施策を行った。</p> <p>1つ目は新体力テストを活用した施策である。事前に各学年の体育授業において各種目の練習を行い、当日も保護者や地域の方々の協力を得て、縦割り班を活用して集団で実施をした。2学期中は、令和6年度の平均よりも低い運動能力補充について、運動例を体育館に掲示する。各学年授業で取り入れ、活用度や反応を見ながら、令和7年度の補充についても、よりよい提案や場の設定をしていきたい。反省として、一学期中に掲示できれば、6月の新体力テストに向けて、より具体的な種目の練習が可能であった点があげられる。来年度は迅速な分析や周知を徹底したい。</p> <p>2つ目はマラソン運動の改善である。各学年4回ずつグランピングで走る時間を設定し、体力づくりができる機会を多くした。さらにカードも回数の記入だけでなく、10月に行われるマラソン運動2に向けた振り返りができる形にした。</p> <p>その他、体育委員会でサッカー遊びのきまりについて協議し、その内容を体育委員の子どもたちが放送して全校に周知した。子どもたち自身が話し合ったきまりを全校で守ることにより、楽しく安全な体力の向上が見込まれる。</p> <p>後期は、業間運動としてマラソン運動2やなわとび運動が予定されている。児童委員会の活用や、がんばった児童を称揚する取組を工夫して、さらに進んで体力つくりに取り組む児童を育成していきたい。</p>			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価 B	
			前期	後期
7 Happy 体つくり ・自分の身体を知り、体つくりに向き合う子	(11) 体力つくり	・運動会 ・業間運動 ・新体力テストの実施	3	

◎取組の実際

1 新体力テストの実施

(1) 実施に向けた体力づくり
・学年や学級による事前の練習

(2) 新体力テスト
・保護者や地域から協力者を募り、縦割り班を活用しての学年合同体力テストを企画・実施
・上學年のリーダーシップ、下學年のフォローウーシップの育成（兄弟学年の活用）

2 マラソン運動
・走る回数を増やしたことによる習慣づけ
・周回記録や振り返りの欄を加え、10月に向けての体力向上のイメージをもつ

3 業間のグラウンド遊び
・遊び方やきまりを体育委員会で協議
・遊び方やきまりを周知することによる、子どもたちが安全でBe Happyな体力づくり

新体力テスト実施の様子




マラソン運動

[7に関するデータ] <児童アンケート>

体力づくり



回答	割合
よく思う	75%
思う	19%
あまり思わない	5%
思わない	1%

「体育や運動会で体づくりをがんばっていますか。」

体力向上



回答	割合
よく思う	37%
思う	50%
あまり思わない	13%
思わない	0%

<保護者アンケート>

「学校は子どもたちの体力を高めるための取組をしていますか。」



マラソン運動

重点E ふるさとキャリア教育

8 ふるさとキャリア教育

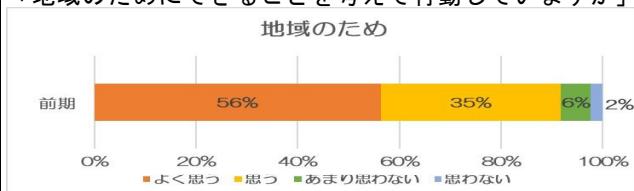
児童生徒の状況	自己評価A	運営協議会評価	運営協議会のコメント
(児童が)地域のためにできることを考え、取り組んでいる。	前期	良好	良好
	年度		SC活動は、事前に打合せをもつことで、活動の目的や内容などが確認できている。BeHappyプロジェクトなど、児童側からの自発的な行動が素晴らしい。続けていきたい事業である。
自己評価の概要と学校の改善策	【前期（→年度）】ハッピーグリーンプロジェクトでは、参加者と児童が一緒にグラウンドの芝生の整備作業をすることによって、児童と地域の方々との交流の場を増やすことができた。草取りだけでなく、子どもたち自ら学校や地域の生活について話しかけた。実の孫のように接してくださる方が多かったことも、大変有り難かった。 今年度も、ふるさとキャリア教育の年間指導計画を全職員で確認し、全体のテーマも学校教育目標を意識して、「弥栄Be Happy！プロジェクト～みんなでつくろう、幸せなふるさと～」を継続している。4月の第1回弥栄Be Happy！集会では、運営委員会を中心に、各学年の取組を紹介したり、SC活動の意義を説明したりして、全校で共通理解を図ることができた。8月は大館神明社祭典に先立って、第2回弥栄Be Happy！集会を実施し、神明社の宮司さんから地域が共に栄える「弥栄」の意味を教えていただいたり、大館囃子保存会の方々を招いてお囃子体験をしたりした。これにより、全校で地域の伝統文化に親しむことができた。また、第一中学校区共通の取組として、神明社祭典当日を「ふるさと学習の日」として、地域で学ぶ日とした。様々な形で地域の行事に触れることにより、地域と関わりながら進んで行動しようとする児童の思いが高まったと思われる。今後は、地域への思いをより一層大切にしながら、児童が地域のことを詳しく調べたり、地域のためにできることを考え、発信したりする機会や場の設定にさらに努めたい。		

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
9 Happy夢育て ・地域の幸せを願う「弥栄Be Happyプロジェクト」 ・夢に向かって生きる人かつこいい大人から学ぶ「夢と生き方プロジェクト」	(12) SC活動	・ハッピーグリーンプロジェクト(花の苗植え、芝生の草取り) ・キャリアノート・パスポートの活用・推進 ・子どもハローワークの奨励 ・町内SC活動	3	
	(13) 弥栄Be Happy!プロジェクト	・弥栄Be Happy!集会への取組 ・地域学習 ・夢授業(6年生: pre ようこそ先輩)(全校: 防災プロジェクト)	4	

〔9に関するデータ〕

〈児童アンケート〉

「地域のためにできることを考えて行動していますか」



◎取組の実際

(1) SC活動の推進と夢を育む取組

- ・ハッピーグリーンプロジェクトや、町内ごとに地域の方と一緒に取り組む活動を計画・実施。
- ・夢授業の計画(8月実施・10月実施予定)
児童の夢を育むために、様々な分野で活躍されている方々や卒業生をお招きし、交流する「夢授業」を計画・実施。
- ・子どもハローワーク
大館市内の企業や団体、公共機関の協力により、多様なお仕事の体験を紹介。

全校へ案内を隨時配付・取りまとめ。

延べ50名の申し込み(4~8月)。

(2) 弥栄Be Happy！プロジェクト

- ・弥栄Be Happy！集会の取組
- ・地域学習に関わる活動の紹介。
- ・弥栄集会での掛け声・お囃子・踊りの体験。

(3) 幼保小架け橋プログラム

- ・年間計画に基づき、学区内のこども園の年長児と1年生が交流。

〈地域学習の学年テーマ〉



1年生



2年生



3年生



だれもが Happy な世の中に!
福祉プロジェクト



5年生



6年生

みんなの幸せを守ろう!防災プロジェクト